

□議員名：山田伸幸

1 宇宙監視レーダーの建設について

論点	埴生地区に建設が進められている宇宙監視レーダーは、防衛省が他国のキラ衛星、スパイ衛星も監視の対象と発言しておりテロへの危険が高まった。市としての考えはどうか。
回答	住民から不安の声が寄せられた場合は、住民の立場に立った説明を要請する。

論点	レーダーは赤道上4万kmを照準にして、強力な電波が照射される。防衛省は電波防護指針に沿って設計するとしているが6機のレーダーを合わせて照射するようなことは防護指針にはない。住民生活に影響が出るおそれがあり、市としてどのように対応するのか。
回答	現在、設計段階であり市民生活への影響についても検討されている。市民の不安があれば解消できるように求めていく。

論点	専門家は「秘密が多すぎて危険性の指摘ができない」と言っている。市民の不安をなくすために、あるいは危険性をなくすために藤田市長はどう取り組むのか。
回答	市民にとっての安全対策は国策といえども、市にとって最大の課題と考える。しかし設計ができていない段階で安全性の担保については難しい。市としてしっかり安全対策を講じていきたい。

2 新型コロナウイルス感染防止対策について

論点	お盆以降に感染が急速に広がりクラスター認定されたが、いわゆる「夜の街」への外出自粛要請など必要ではなかったか。
回答	昨日までで市内の感染者数は60人となっている。クラスター発生を受け、県の集中検査に協力してきた。一帯の店舗54軒、190人の従業員への調査を行い、感染者は1人だった。

論点	検査から漏れた人がいるが、感染者の濃厚接触者である。また、感染児童の同級生の親族も子どもとは濃厚接触している。PCR検査を求めて
----	------------------------------------------------------------------

	も検査してもらえなかった。市民は納得していない。
回答	行政検査として感染リスクが高いケースを優先的に実施している。県は検査態勢を拡充するために8地域で地域検査センターを設置するとしている。医師からの検査依頼により検査を行うこととされている。

論点	市は市民に対して「三密解消」と言っているが、肝心の福祉事務所では密状態であり、ここでもし感染が広がれば業務が停止し、市民にも多大な影響が出てしまう。密状態の解消をするべきではないのか。
回答	市職員への対応は事業主として大切な健康管理は重要であるが、PCR検査の予定はない。職場環境の改善は建物の構造上の問題であり、現在進行中の耐震工事完了後に検討する。 当面は、マスクの着用と手指の消毒、さらに職員間にシールド設置を考えている。

論点	学校で感染者が出て4校が休業となった。感染が広がらなかったのは日頃からの感染予防が良く行われていたからだと思うが、根本的に少人数学級を実現してはどうか。
回答	コロナ対応において少人数学級は効果的と考える。学級編成権を持つ県に要望したい。